伊藤病院だより
SUMMER

Voice

2025年6月1日発行　第90号　東京都渋谷区神宮前4-3-6　伊藤病院広報誌委員会

グリーンテラス 表参道

医療の国際化に向けて

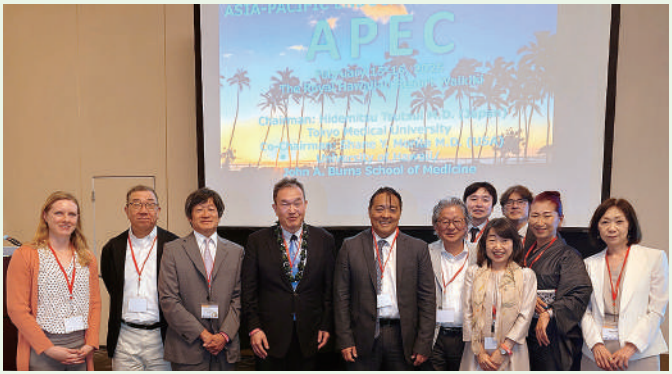
◆第34回アジア太平洋内分泌会議(APEC)に参加しました（ハワイ・ホノルル）

伊藤病院　内科　小澁正和

アジア太平洋内分泌会議(APEC: Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference)は1988年に設立された、歴史ある学会です。伊藤公一院長が理事長を務め、事務局も当院に設置しております。34回目を数える今回は、2月15日から16日にかけて東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科教授 筒井英光先生を会長としてハワイ・ホノルルのロイヤルハワイアンにおいて開催されました。日本や現地の医師だけではなく、ハワイ大学医学部の学生も参加して演題を発表するなど期日間は盛況を博していました。当院からも伊藤公一院長をはじめ、杉野公則副院長、北川亘診療技術部部長、渡邊奈津子内科部長、ヘイムス規予美医師、小澁が参加し、演題発表、レクチャー、座長などそれぞれの役割を全ういたしました。

米国医師の発表では、検査や治療にかかる費用面にも言及する場面が多いことが印象的でした。本邦でも医療費の問題に直面しており、それに伴う検査や治療の選択について考えさせられる内容もありました。

2026年度は当院が主催し、渡邊奈津子内科部長を会長としてアラブ首長国連邦(UAE)のドバイにおいて開催予定です。今後も伊藤病院は内分泌分野の発展に貢献していけるように積極的に国内外へ発信を続けるとともに、得た学びを日々の診療において患者様へ還元できるよう努めてまいります。



発表

ヘイムス規予美	A Case Report of Differentiated High Grade Thyroid Carcinoma (DHGTC)
小澁正和	Clinical Outcomes Following Radioactive Iodine therapy for Marine-Lenhart Syndrome

特別講演

杉野公則	SPECIAL LECTURE 2「Pediatric follicular thyroid carcinoma-clinicopathological characteristics and long-term outcomes -」
渡邊奈津子	MINI LECTURE 3「Cardiac Complications in Patients with Resistance to Thyroid Hormone Beta (RTHβ) Due to Thyroid Hormone Receptor Beta Gene Mutations」

座長・司会

伊藤公一	SPECIAL LECTURE 1
杉野公則	MINI LECTURE 2
北川　亘	THYROID 1
	CO-SPONSERSHIP SEMINAR「Thyroid cancer treatment in Japan: based on the latest findings」
ヘイムス規予美	THYROID 3

伊藤病院　2025年の臨時休診および学会日程のご案内

学会会期中は学会参加のため、臨時休診や多くの医師の外来が変更となります。

また、会期中のほか、会期の合間や前後の週は混雑が予想されます。特に臨時休診後は混雑することが多いため、早めのご来院をご検討くださいますよう、お願いいたします。

外来の臨時休診

11月27日(木) ～ 28日(金)は、日本甲状腺学会学術集会のため、外来診療を休診とさせていただきます。

多くの医師の外来変更・休診があります。

下記期間中は、学会参加のため多くの医師の外来が変更となります。

6月　5日(木) ～　7日(土)　日本内分泌学会学術総会
11月29日(土)　日本甲状腺学会学術集会

医療の国際化に向けて

◆ラオス北部・ウドムサイ県での2回目の甲状腺疾患治療および　技術移転活動に参加して

伊藤病院　外科医長　友田智哲

1月中旬に、有給休暇を利用し、ラオス北部に位置するウドムサイ県病院での甲状腺手術支援活動に参加しました。この活動は、国際医療NPO団体であるジャパンハートと日本内分泌外科学会とのパートナーシップ協定のもとで実施されているものです。ラオスは東南アジアで唯一海に面しておらず、人口は約744.3万人、国土は日本の本州とほぼ同じくらいの面積です。また、医師・看護師などの医療関係人材の数は、アジア地域の中で最も少なく、医療人材の不足が深刻な問題となっています。

今回の支援活動への参加は2回目でしたが、前回と比べて、ラオスの外科医や看護師たちが甲状腺手術に関する知識を深め、自発的に行動する姿に大きな感銘をうけました。特に看護師の職務範囲の広さと柔軟さには驚かされました。日本では医師が担当することが一般的な病棟での医療行為の多くを、ラオスでは看護師が主体的に行っています。たとえば、甲状腺手術後に頸部に挿入するドレーン(排液管)の抜去についても、看護師から「病棟でできることは自分たちでやりたい」という申し出があり、指導後に実践していただきました。その手技は非常に上手で、患者さんたちも、とても協力的であったことが印象的でした。

さらに、「英語も勉強しています」と話しながら、看護業務やカルテ記載に用いる用語をラオス語と英語で細かく書き込んだノートを見せてくれた姿が印象に残っています。「もっとさまざまなことを学びたい」と語るその笑顔からは、向上心と情熱が強く感伝わってきました。自国の人々を救うために、自ら考え行動するその姿勢に触れ、私自身、日本での診療の中で忘れかけていた大切な何かを思い出したような気がします。

今後も機会があれば再訪し、ラオスの医師や看護師の皆さんと共に、患者さんのためにできることを相談しながら協力を深めていきたいと考えています。

ウドムサイ県病院の
病棟看護師詰所にて
ラオス看護師さんの
ドレーン抜去介助中

外来にてラオスの内科医と外科医と患者さんに関して相談中

学会活動

ピックアップ 伊藤病院研究会を開催しました

伊藤病院　内科部長　渡邊奈津子

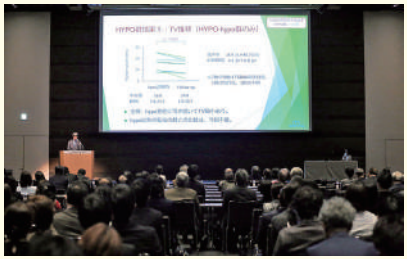
3月1日に第55回伊藤病院研究会を虎ノ門ヒルズフォーラムで開催しました。この会は、1977年に始まって以来当院の最新の研究結果・知見を発表する場です。当院職員に加え、全国から甲状腺疾患の研究・診療に携わっている先生方など、合わせて約230名にご参加いただきました。

内科はわたくしより導入として「TSH受容体阻害型ヒトモノクローナル抗体薬について」について紹介したのち内科廣瀬玲医師より発表があり、外科は松井愛唯医師より発表がありました。発表概要をご紹介します。

「TSH受容体抗体関連疾患：甲状腺機能異常におけるTSBAbとTSAbの役割」

内科　廣瀬玲

通常、適量に調整された甲状腺刺激ホルモン（TSH）がTSH受容体を介して甲状腺を刺激することで、常に丁度良い量の甲状腺ホルモンが合成、分泌されています。しかし、TSH受容体に結合する抗体が存在すると、甲状腺ホルモン量の調整がうまくいかず、甲状腺機能亢進症や甲状腺機能低下症になります。甲状腺ホルモン合成を刺激する抗体がTSAb、阻害する抗体がTSBAbと呼ばれ、前者はバセドウ病、後者は甲状腺機能低下症の原因となります。両者が同時に存在し、甲状腺機能が不安定になることもあります。しかし、TSBAbの出現は稀であるためTSBAbに関する過去の研究は少なく、TSBAbが患者様にどのような影響を与えるのか、十分には解明されていません。そこで、当院で診療しているTSBAb陽性患者様の治療経過や特徴を解析し、TSAb陽性患者様との比較も行うことで、TSBAbのふるまいを詳しく検討して報告させていただきました。



「伊藤病院における甲状腺乳頭癌の新しい手術療法ガイドラインと改訂点」

外科　松井愛唯

当院では院内指針として手術療法のガイドラインを作成しており、数年に一度改訂を行っています。今回の研究会では最新の当院の手術療法ガイドラインについてその改訂点を報告しました。

甲状腺乳頭癌の治療は手術療法が中心となり、甲状腺切除とリンパ節郭清を行います。手術方法（甲状腺切除範囲やリンパ節郭清範囲）を決める際には、術後の再発や転移を見つけやすい状態を作り出せるかどうかがポイントの一つとなります。主にこのような点について、当院からの報告をもとに日本のガイドラインや報告と併せて当院の外科医師で検討し、今回の改訂では甲状腺乳頭癌における甲状腺切除範囲が以前よりも縮小されました。

一般に乳頭癌は生命予後が良好とされ、術後の経過観察期間が長い疾患です。その期間を安心して過ごすことができるよう、引き続き検討していきます。

学会活動

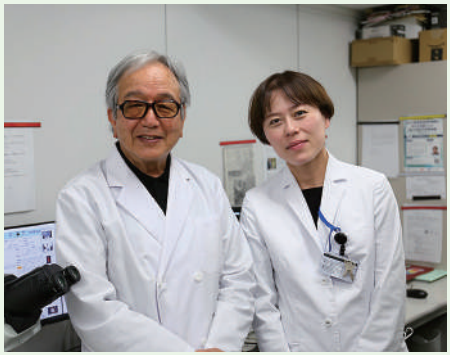
ピックアップ 第40回甲状腺病態生理研究会を終えて

伊藤病院　内科　鈴木菜美

2月22日に第40回甲状腺病態生理研究会が獨協医科大学埼玉医療センター副院長 橋本貢士先生の会長のもと、品川シーズンテラスカンファレンスにて開催されました。本研究会は、甲状腺の病態生理に関する研究を進め、この分野の新しい知識及び技術の普及、並びに参加者相互の理解を深め甲状腺疾患診療に貢献することを目的として設立されました。今回も甲状腺に関連する多くの臨床および基礎研究が発表され、活発な議論が交わされました。また、近年ニュースでも目にする機会が多くなった「PFAS（有機フッ素化合物）」と甲状腺ホルモンに関連する最新の知見について、群馬大学の鯉淵典之先生より特別講演がありました。

当院からは廣瀬玲医師が『バセドウ病治療経過中に阻害型抗TSH受容体抗体による甲状腺機能低下症を発症した症例における甲状腺重量推移の検討』について、及び鈴木が『バセドウ病再発/再燃と抗甲状腺薬休薬時のTRAb値との関連』について発表し、研究奨励賞に選出いただきました。これからもより良い甲状腺疾患診療に貢献できるよう、研究にも邁進したいと思います。

当院には日本病理学会・国立がん研究センターの病理診断コンサルタントが2名在籍しています



患者様が病院に来院されると、適切な治療のために適切な診断が必要になります。患者様の身体より採取された病変の組織や、細胞からつくられたガラス標本で行われる病理診断は、疾患の最終診断として治療に大きな役割を果たします。この診断を行うのが病理医です。全国の病理専門医は約2,700名（注：内科医は約73,000名）と、医師の中でも多くはありません。病理医は一般に頭のてっぺんから爪の先まで、身体全ての臓器の病理診断を行いますが、時に診断経験の少ない分野やまれな疾患等であると、病理診断が困難なことがあります。診断に困ったときに相談できるような、病理医が複数名勤務している病院は教育機関を中心とした大規模な病院に限られており、また相談したい分野を得意としている病理医が院内に必ずいるとも限りません。そのようなときに、全身の中でもより得意とする専門臓器を持ったエキスパートの病理医に病理診断の相談を全国どこからでも行えるような仕組みが日本病理学会・国立がん研究センター 病理診断コンサルテーションシステムです。

このシステムに登録された甲状腺・副甲状腺分野のエキスパート病理医は全国で7名おります。甲状腺専門病院である伊藤病院では、2018年4月より山梨大学名誉教授である加藤良平医師が病理診断科科長として入職し、院内の診療や前述の甲状腺分野のコンサルテーションを行ってきました。さらに、2024年10月から常勤に加わった川井田みほ医師も同様に2025年4月から副甲状腺分野のコンサルタントに就任しています。

当院では、院内だけでなく全国から集まる甲状腺・副甲状腺分野の病理診断を2名体制とより強化し、さらなる質の向上に取り組んでまいります。

伊藤病院の取り組み

当院では、患者様により安全、安心な医療をご提供できるよう、また、患者様の利便性の向上に日々取り組んでおります。
現在のおもな取り組みについて、ご紹介いたします。

新電子カルテ導入のお知らせ
※2026年1～2月は診察待ち時間が長くなる可能性があります

当院では、より高機能およびセキュリティ対策向上のため、2026年1月に新しい電子カルテの運用開始を予定しております。
円滑なシステムの移行に向けて、職員一同入念に準備を進めておりますが、導入直後は想定外のトラブル等でお待たせしてしまう恐れがございます。
ご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

クレジットカードでのお支払いに対応（2025年夏）

これまで多くのご要望をいただいており、長年検討してまいりましたが、今年夏に対応予定です。ご利用可能になりましたら、改めてご紹介いたします。

新エレベータの導入および病棟改修工事（2026年1月）

入院中も気持ちよく、安心してお過ごしいただけるよう、病棟をリニューアルいたします。また、セキュリティ制限に対応したエレベータを導入いたします。

超音波検査 待ち時間改善への取り組み

超音波検査の待ち時間を短縮するため、検査22に加えて超音波検査が可能な検査23を新設し、昨年11月より運用を開始いたしました。
甲状腺の病気は治療が長期にわたることが多いため、当院では患者様がご都合のよい時や体調が気になる際にご来院いただけるよう、予約制をとっておりません。そのため、一方では混雑時には待ち時間がさらに増えてしまう状況にあり、当院も継続して待ち時間の改善に向けて取り組んでおります。
近年、超音波検査がある方の待ち時間が長くなっており、中でも初診の方は検査のタイミングが診察後となるため、診察前に検査をする再診の方よりも待ち時間が増えてしまう傾向にあります。対策として、初診の方の超音波検査は検査23を中心に行い、再診の方はそのぶん検査22を活用することで、待ち時間短縮を進めております。
今後もさらなる人員増やシフト、運用を検討し、継続して待ち時間の改善に向けて取り組んでまいります。

見学者のご紹介（垣内晃人先生）

札幌医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教の垣内晃人先生が見学にいらっしゃいました。同講座は北海道における耳鼻咽喉科医療の中核を担っており、甲状腺手術件数も道内屈指の実績があります。また、さっぽろ甲状腺診療所においても手術が必要な患者様の対応で連携しており、垣内先生ご本人には診療所での診察にも協力いただいております。

当日は、同じく耳鼻科医でもある友田外科医長から当院の診療についてご紹介し、手術や外来、検査などをご見学いただきました。

垣内晃人先生（写真左）

第15回渋谷・表参道WOMEN'S RUNに参加しました

伊藤病院　RUN部

3月23日(日)に、第15回渋谷・表参道WOMEN'S RUNが開催されました。今年も全国から5,000名の女性ランナーが普段走ることができない渋谷、表参道のメインストリートや明治神宮内を含む10kmの部に参加しました。大変人気の大会であり、渋谷区民枠は先着順ですが、一般枠は抽選となっています。当院は軽傷者が出た場合の受け入れ施設として、大会に協力しています。また、当院職員もこの大会を目標に毎週練習しており、今年は4名が参加しました。

代々木公園をスタートし、渋谷から表参道へ、当院の前が折り返し地点となっています。渋谷周辺は坂が多く、明治神宮内にも起伏があり、アップダウンの多い厳しいコースとなっています。今年は大会4日前に季節外れの雪が降ったにも関わらず、大会当日は晴れていて夏日並みの24℃でした。急激な気温の変化に慣れず、例年より身体が悲鳴を上げていましたが、沿道の多くの方の応援が励みになり、ボランティアや救護の方々に見守られながら完走することができました。

甲状腺眼症と新しい治療薬

伊藤病院　内科部長　渡邊奈津子

甲状腺眼症とは、自己免疫の甲状腺の病気(自己免疫性甲状腺疾患)をもっている方に、免疫システムの異常によって目の周りに炎症を生じる疾患です。甲状腺眼症を合併する自己免性甲状腺疾患は、バセドウ病がほとんどですので、これまでバセドウ病眼症とも呼ばれていました。しかし稀に橋本病の方などにも生じるので「甲状腺眼症」と呼ばれるようになりました。

甲状腺眼症では、まぶたや目の筋肉などに炎症を生じて、まぶたのはれや、目が前の方へ突出する、物が二重にみえるといった症状があらわれます。最も重症になると視力が低下することもあります。このような症状は生活の質の低下につながりうるといわれています。ステロイド薬、放射線治療、手術などによって治療されますが、中には効果が十分得られない方や副作用で治療を続けられない場合もあります。このため、新しい薬の登場がのぞまれており、日本でも甲状腺眼症に対する新しい薬の効果や安全性を調べるさまざまな研究(治験)が行われ、当院では現在、伊藤病院研究会でご紹介したTSH受容体を阻害するK1-70TMという薬の治験に取り組んでおります。

そのような中、2024年11月にテプロツムマブ(テッペーザ®)という薬が活動性甲状腺眼症に対し使用可能となりました。この薬はインスリン様成長因子-1の受容体を阻害する新しいタイプの薬で、高血糖や耳に関連した副作用があること、治療費用のサポート(高額療養費制度)の対象になりうることなど、注意事項もあります。どの治療法があっているかは、まず甲状腺眼症がどのような状態か眼科でくわしく検査をして、治療毎の効果や副作用などもふまえて、相談しながら検討していきます。

当院では、甲状腺眼症の眼科診察や検査、治療はオリンピア眼科病院など専門の眼科へご紹介しています。ご相談がある方はお声がけください。

表参道寄り道スポット

クリントン ストリート ベイキング カ ンパニー 南青山店

今回紹介するお店は、伊藤病院から徒歩15分、骨董通り沿いにある「クリントン ストリート ベイキング カンパニー 南青山店」です。発祥の地はニューヨーク。2001年のオープン以来、世界中から来るファンに愛され、毎日のように行列が絶えないお店が、2013年青山にもオープンしました。ニューヨークで高い評価を獲得したその味、雰囲気を日本でもお楽しみいただけます。

定番メニューは、パンケーキwithメープルバター。良質な材料とホームメイドにこだわり、ニューヨーク・マガジンで最高評価を得た一品。味は「ブルーベリー」「バナナとくるみ」「チョコレート」の3種類から選ぶことができます。なかでも1番人気のブルーベリーは、もちもちとした生地のパンケーキの上に、たっぷりとブルーベリーがトッピングされており、その横にメープルバターが添えられています。ブルーベリーはジューシーで程よい酸味があり、パンケーキとの相性は抜群です！！お好みでメープルバターをかけるとバターの風味が口いっぱいに広がり、より一層おいしくいただけます。

アメリカンモーニングとして人気のエッグベネディクトは、バターミルクビスケットを土台に、ポーチドエッグとオランデーズソースを組み合わせた独自のスタイル。イングリッシュマフィンではなくビスケットを使用することで、サクサク食感と卵のトロリとした食感がマッチした新感覚の味わいを堪能することができます。

サンドイッチやバーガーなどのお食事メニュー・ドリンクメニューも豊富にあり、ランチやカフェタイムも楽しめるほか、9：00～11：00限定のセットメニューもあるのでモーニングのご利用もおすすめです。是非、本場ニューヨークの味をご堪能ください！混雑する時間帯もあるため、一度店舗にお電話してから足を運んでいただくと安心です。

パンケーキwithメープルバター（ブルーベリー）
1,540円

エッグベネディクト
1,870円

※価格はすべて税込表示です

お店の方から一言

定番メニューはもちろん、スペシャルパンケーキなど月替わりの限定メニューもおすすめです！お席はネット・電話でご予約いただけます。焼き菓子やドリンクといったテイクアウトメニューも豊富に用意していますので、お気軽にお立ち寄りください。

基本DATA

店名	クリントン ストリート ベイキング カンパニー 南青山店
住所	港区南青山5-17-1 YHT南青山
電話番号	03-6450-5944
営業時間	9:00～18:00（L.O.17:00）
定休日	不定休
アクセス	東京メトロ「表参道駅」B1出口から徒歩7分 当院より徒歩13分
Wi-Fi	あり
携帯充電	席によっては可能
Instagram	@clintonstreetbakingcompany
喫煙	不可
席数	50席

まるき 自家焙煎 Dish feat.Coffee&Tea

「自家焙煎」と大きく書かれた看板が目を引くお店に足を踏み入れると、店内はコーヒーの良い香りに包まれたおしゃれな空間が広がっています。1階はカウンター席、2階は大きな窓が気持ち良いテーブル席があります。そして、2階に上がってすぐのところには有田焼きや美濃焼きといった誰もが一度は耳にしたことのある伝統工芸品のお皿やコーヒーカップがずらり。感触や使い心地を体感することができ、購入も可能です。

お店で提供されているコーヒーは、世界各国から厳選し取り寄せたコーヒー豆を毎日丁寧に焙煎し、熟練のバリスタが淹れてくれます。大会でも上位に入る腕前のスタッフが丁寧に作り上げるラテアートも魅力のひとつ。カップは自分の好みのものをチョイスでき、伝統工芸品ということもあってどれも高級感を感じられ、より一層特別な味わいとなります。

ゆったり落ち着いた空間でいただくランチメニューには、サンドイッチセットやサラダボウルセットなどがあり、「ミニスープ」「デリ」「コーヒーか紅茶」が付きます。和風にアレンジされているメニューも多く、おいしそう！迷ってしまいます。そんななかでもおすすめは、「たまごサンド和風タルタル」のセット。いぶりがっこタルタルソースは食感も良くほどよい塩味と香ばしさが感じられます。ぜひ、ご賞味ください！

ちょっと一息つきたいときにおすすめなのが、コーヒーや紅茶と一緒にいただくスイーツ。種類が豊富で目移りしてしまいます。なかでも「ティラミス」はマスカルポーネのクリームがまろやかで心地よく、アーモンドクラッシュが添えられて食感のアクセントもあり、幸せな気持ちにさせてくれます。

ぜひ、みなさん、診療の合間や受診後のひとときを『まるき』でお過ごしください！インフューズドなどの珍しいコーヒー豆もテイクアウトできるので、お土産にもおすすめです。

まるき特製和風サンドセット
（たまごサンド和風タルタル）
1,480円

サラダボウルセット
1,580円

※価格はすべて税込表示です

お店の方から一言

『伝統工芸品を体感できる自家焙煎カフェ』がコンセプトの二階建ての隠れ家的カフェです。有田焼きをはじめ、美濃焼きや南部鉄器など、名前は聞いたことがあっても意外と日本人でも触れたことがない工芸品を実際に店舗で提供に使用しています。熟練のバリスタが淹れる美味しいコーヒーを是非味わいに来てください。

基本DATA

店名	まるき 自家焙煎 Dish feat.Coffee&Tea
住所	渋谷区神宮前5-50-1 河島ビル1F・2F
電話番号	03-6805-0316
営業時間	平日　10:30～19:00（L.O. 18:30） 土日祝　9:30～20:00（L.O. 19:30）
定休日	月曜日（祝日の場合は除く）
アクセス	東京メトロ「表参道駅」B2出口から徒歩3分 当院から徒歩6分
Wi-Fi	あり
携帯充電	席によっては可能
Instagram	@marukicoffeetea
平均予算	1,000～2,000円
喫煙	禁煙
席数	28席

健康に関する記事

漢方(薬)について

伊藤病院　外科医長　鈴木章史

皆さん、風邪をひいたら何の薬を飲みますか？　薬に頼らない人もいると思いますが、多くの方は近くの薬局で風邪薬を購入するのではないでしょうか。自分なら何らかの漢方薬を飲みます。漢方薬というと、苦くて飲みにくく、とっつきにくい印象があるかもしれませんが、オブラートに包んだり、お湯に溶いてココアと混ぜたり、飲み方を工夫することで飲みやすくなったりしますし、錠剤のものもあります。風邪の原因の大半はウイルスですので、抗生剤は効果ありませんし、むしろ耐性菌(薬が効きにくい菌)を増やしてしまったり、最大の免疫機関ともいわれている腸内細菌を乱してしまったり、有害なこともあります。基本的には対症療法ですが、漢方を上手に用いることで体が回復しやすくなったりします。

例えば風邪のときに使われる有名な漢方薬「葛根湯」ですが、実は飲むタイミングが大切です。風邪のひき始めに飲みますが、“汗をかいていない”状態が良いタイミングなのです。汗をかいていない風邪のひき始めに、葛根湯を1包あるいは倍量の2包内服すると、その後はバーッと発汗して熱が下がり、風邪が良くなっていくという経過をたどります。すでに汗をかいている場合には、葛根湯を飲む最適なタイミングではないのです。また、葛根湯の効能効果には、感冒(＝風邪)の他に、肩こりや蕁麻疹なども記載されています。個人的には、風邪のときというよりは、デスクワークなどで肩こりが酷いときに飲んだりしており、効果を実感しています。ただし甲状腺の観点からは、葛根湯には麻黄(まおう)という生薬が入っているため、甲状腺機能亢進の状態では動悸がしやすくなるので注意が必要です。

また、漢方薬は長期間飲まないと効かないと思っている方もいらっしゃいますが、こむら返りに用いられる「芍薬甘草湯」は内服後すぐに効果が出ます。運動部の救急箱に入っていたりするくらいですから。バセドウ病で治療開始後、甲状腺機能が徐々に下がっていくときに、よくこむら返りが生じますが、そのような時にも効果がありますので、担当医に相談してみてください。

日本では西洋医学をベースに診療を行っていますが、冷えやだるさなど、西洋医学でも治療に窮する場面があり、そんなときに漢方薬が役立つことがあります。抗がん剤治療の副作用対策としても有用なことがあります。ある状況では効果がなくても、体の状態が変化すると良く効いて、漢方薬がまずく感じなくなる(味証といって体に漢方が合っている証拠)こともありますので、気軽にお試しいただければと思います。

病院からのおしらせ

伊藤病院フォーラムを開催しました

4月12日に17回目となる伊藤病院フォーラムを開催しました。この会は、院内の各部署が取り組んでいる業務改善などについて発表するもので、他部署の業務理解や連携を深める目的があります。今回は連携施設である名古屋甲状腺診療所も含め合計4演題の発表がありました。

最優秀演題に選ばれたのは「ISO事務局」による発表です。ISO事務局は、当院が認証を取得しているISO 9001に関する業務や、院内の規定やマニュアルの管理などを行っています。今回の発表は、院内で患者様向けにお配りしている文書(パンフレットや説明書など)の管理方法見直しについての報告でした。文書を一括で登録・管理する仕組みは以前からあったものの、実際には登録漏れや改版の記録漏れなどが多くあり、うまく機能していませんでした。そこで昨年、管理方法を見直し文書の分類などを再構築しました。それに伴って、見直し前には571種類あった文書は337種類にまで削減。病院全体の業務改善につながったことが報告されました。

NAGOYAだより Vol.66

伊藤病院 連携施設

名古屋甲状腺診療所

災害食の試食会を開催しました

名古屋甲状腺診療所　防災委員会

昨年、2024年には1月1日に能登半島地震が起こり、8月に宮崎県での震度6弱の地震が発生、南海トラフ地震臨時情報が発令されるなど、災害大国日本において、防災は大変重要なキーワードとなっています。その中でも、生命を守るための基本的な備えとして防災食は重要なポイントです。診療所では、万が一の災害時にも安心して過ごしていただけるよう、患者様のための防災食を準備しています。

体力の消耗が激しくなる災害時に、食事はエネルギー確保はもちろん、ストレス軽減の役割も果たします。そこで、防災委員会では日々進化する災害物品に触れ、実際に食事をすることで防災について考える機会として、3月に防災食の試食会を開催しました。参加した職員からは「思ったより美味しい」「非常時に甘い物はうれしい」といった声が寄せられました。今回の試食を通じ、食材の備蓄状況や改善点についても意見を交換することができました。

今後も定期的に勉強会等を開催し、職員一人ひとりが防災意識を向上できるようにと考えています。

名古屋甲状腺診療所
住所：愛知県名古屋市中区大須4-14-59
電話：052-252-7305　FAX：052-252-7308
ＨＰ：https://www.kojin-kai.jp/nagoya/

さっぽろだより Vol.34

伊藤病院 連携施設

さっぽろ甲状腺診療所

コミュニケーション能力向上の勉強会を実施しました

おかげさまでご来院いただく患者様も年々増加しており、昨年はのべ15,000名以上の方にご来院いただきました。地域の医療機関・先生方との連携も深まっており、昨年からは伊藤病院に加えて、札幌医科大学からも外来に協力をいただいております。

そこで、これまで以上に患者様の待ち時間の負担軽減のための業務効率化や、患者様に変わらず丁寧にご対応できるよう、接遇が重要になっていると考えております。より円滑な業務推進と接遇向上のため、5月に青山千景講師をお招きし、診療終了後にコミュニケーションに関する勉強会を実施しました。

青山講師は研修講師だけでなく、フリーアナウンサーや北海道観光大使など幅広く活躍されております。講演では医療現場でよくあるケースを取り上げながら、相手への気遣い、言葉遣いなど、職員同士でのディスカッションを行いつつどうすれば良好なコミュニケーションをとることができるかについてお話しいただきました。特に、言葉遣い一つで大きく印象が変わることについては、テレビレポーター時の体験談などもうかがうことができ、楽しく学ぶことができました。

今回の勉強会を機により良いコミュニケーションを構築し、職員同士で協力して人数以上のパワーを発揮できるよう、取り組んでいきたいと考えております。

さっぽろ甲状腺診療所
住所：北海道札幌市中央区大通西15丁目1-10
ITOメディカルビル札幌5F
電話：011-688-6440　FAX：011-688-6439
ＨＰ：https://www.kojin-kai.jp/sapporo/

やました甲状腺病院のご紹介 第48回

このコーナーでは、当院の診療連携施設であるやました甲状　腺病院の情報をご紹介してまいります。

医療法人福甲会　やました甲状腺病院　院長　佐藤伸也

大塚国際美術館に行ってきました

やました甲状腺病院の佐藤伸也です。

毎年2月に神戸で甲状腺の病理、細胞診の研究会があり、毎年勉強しに(お酒を飲みに？)行っています。今回、その機会を利用して徳島県鳴門市にある大塚国際美術館に行ってきました。

大塚国際美術館は大塚製薬グループが創業75周年を記念して創業の地、徳島に1998年に開館した美術館です。関連会社の大塚オーミ陶業が持つ陶板技術を用いて複製した西洋絵画を、オリジナルの原寸大で展示するというのがこの美術館のコンセプトです。最近では2018年に紅白歌合戦で徳島出身の米津玄師さんがバチカンのシスティーナ礼拝堂(今年、教皇死去に伴うコンクラーベが行われました)を模したホールで熱唱していたので記憶にある方も多いかと思います。

大塚国際美術館は地下３階から地上2階まで、過去から現代へと(B3F➡2F)時代順に絵画、壁画が展示されています。すべて西洋画のため、古い時代のものではキリスト教の一節を表現したものが多く、私にとっては「暗く、説教くさい」印象で、絵もあまり上手くないのですが(いわゆる名画に失礼な言い方ですが、現代からみると写実的とは言えない)、時代を経るに従い絵画の技術がどんどん上がっていき、写実的な絵画となっていくのが分かります。ルネサンス期の三大巨匠(ラファエロ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ)以降の絵画はいずれも非常に上手で、19世紀の絵画(例：トレチャコフ美術館蔵 イワン・クラムスコイ作『見知らぬ女』、ルーブル美術館蔵 ジャック＝ルイ・ダヴィッド作『皇帝ナポレオン1世と皇后ジョゼフィーヌの戴冠式』)あたりはかなり写真に近いと思えます。入館者に人気があるのもこのあたりの作品で、皆さん思い思いに写真を撮影していました。

ところが、階が上がり、地上1階2階の現代アートのフロアに来ると状況は一変します。今まで写真のようになっていった絵が途端に意味不明の絵画になっていきます(ピカソの「ゲルニカ」を思い浮かべてくれれば分かるでしょうか。本作の複製陶板画も大塚国際美術館にあります)。いずれも世界有数の美術館に収蔵されている名作と言われる絵画ばかりなのですが、私にはそのように見えました。私以外にもそのように思う人が多いようで、現代アートのフロアは閑散としていました。この美術の大きな変化は19世紀半ば以後の「写真技術」の発明・発展が影響したものと思われます。それまでは現実にあるものを、いかに精巧に真似て描くかが絵画の技量とされてきたわけですが、それが写真に取って代わられてしまい、芸術家たちが描くべきものを見失い、道に迷い、苦悩しているように思えました。

医療の世界では「AI(Artificial Intelligence)」の導入が少しずつ進み始めています。あと10年もすれば少なくとも病気の診断については、臨床医はAIに太刀打ちできなくなるでしょう。「写真技術」の発展によって芸術家たちが道を見失い迷ったように、臨床医も迷いの中で自己のあり方を探し求める時が近づいているようです。

医療法人福甲会
やました甲状腺病院
〒812-0034
福岡県福岡市博多区下呉服町1-8
https://www.kojosen.com/
TEL：092-281-1300　FAX：092-281-1301

虫林花山先生の蝶たち

ITO HOSPITAL

伊藤病院　病理診断科科長　加藤良平

幻のヒサマツミドリシジミ

甲状腺のシンボルマークにはしばしばチョウ(蝶)が用いられます。このコラムは、病理医(病理学者)でアマチュア昆虫写真家の虫林花山先生が、国内外で撮影した様々な蝶たちを紹介しています。今回はヒサマツミドリシジミという美しくも幻と言われるシジミチョウを紹介します。ミドリシジミの仲間(ゼフィルス：西風の神)は日本では27種が知られていますが、ヒサマツミドリシジミは、1940年代に記録された比較的新しい種です。その分布域や生態が明らかになるまで長い年月を要し、その当時、日本鱗翅学会がこの蝶の生態解明に懸賞金をかけたくらいです。現在では成虫の生態や幼虫の食樹などは解明されていますが、その希少性と美しさから「幻の蝶」として、多くの愛好家にとって憧れの対象となっています。

ある年の6月、梅雨の晴れ間に静岡県の山を訪れました。稜線で午後の日差しを浴びながら待っていると、どこからともなくミドリシジミの仲間が飛来して、目の前の葉上に静止したのです。翅裏の模様はまさしく「幻の蝶ヒサマツミドリシジミ」でした。胸の高鳴りを覚えながらファインダーを覗いていると、ほどなく、翅を開いてくれました。流れる汗を拭くのも忘れて夢中でシャッターを押しました。ファインダーの中の美しい金緑色の輝きはいつまでも僕の脳裏に焼き付いています。

病院からのおしらせ

入院患者満足度調査の集計結果について

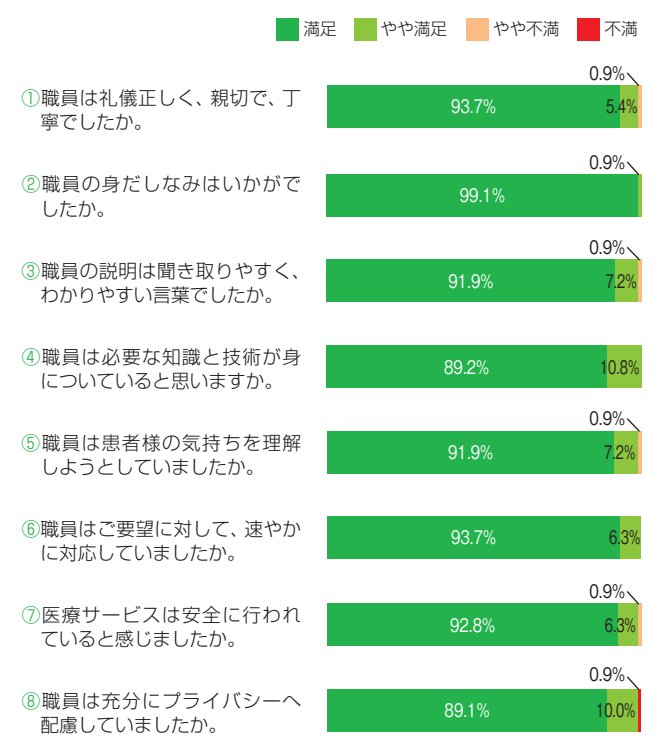
伊藤病院　入院部門患者満足度調査委員会

2024年11月から12月にかけて、入院患者様を対象に満足度調査を実施しました。

外来患者満足度調査同様、今回は「QRコードを用いたスマートフォンでの回答」のみの実施とさせていただきましたが、111件と多くの回答をいただきました。ご協力くださいました皆さまに、厚くお礼申し上げます。

下記に調査結果の一部をご紹介します。これらの調査結果をふまえ、お褒めいただいたことを励みにしつつ、課題としてご指摘いただいたことにつきましては関連部門で協力し、改善につなげるよう取り組み、さらには職員一同皆様の信頼に応えられるよう、努めてまいります。

なお、アンケート期間以外でも皆様からのご意見をお待ちしておりますので、お気づきのことやご意見があった際には「患者ご意見箱」をご利用ください。



学会活動

宮城県臨床検査技師会 遺伝子部門研修会(宮城・1/25)
西村亜美 「甲状腺癌がんゲノム検査における当院の取り組み」

第16回 大江戸内分泌手術手技懇話会(東京・2/1)
友田智哲 「内視鏡下甲状腺術後にoperation tract implantation及び遠隔転移を呈した1症例」

第39回 日本がん看護学会学術集会(北海道・2/22～23)
後藤　希 「医療従事者である患者とのアドバンスケアプランニングの中で葛藤を感じた一症例」
西塚永美乃 「アドバンスケアプランニングをテーマにしたデスカンファレンスの教育的取り組み - 第二報 - 」

第53回 中国四国甲状腺外科研究会(岡山・3/1)
鈴木章史 スポンサードセミナー 1「当院における進行甲状腺癌に対するDabrafenib /Trametinib治療 10例の経験」

第22回 日本臨床腫瘍学会学術集会(兵庫・3/6～8)
正木千恵 「融合遺伝子を有する進行甲状腺乳頭癌の臨床像」
鈴木章史 「進行甲状腺癌に対するマルチキナーゼ阻害剤レンバチニブ治療における支持療法での漢方薬の効果」

第105回 日本病理学会関東支部学術集会(東京・3/8)
川井田みほ 「稀な組織像を呈した甲状腺腫瘍の一例」

Web Symposium Thyroid Eye Disease Seminar(WEB・3/12)
渡邊奈津子 座長「活動期甲状腺眼症に対する治療戦略と新規薬剤テプロツムマブによる治療経験」

第14回 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2025（神奈川・3/15～16)
塩谷純子 「甲状腺癌に対するダブラフェニブ・トラメチニブ 併用療法における発熱が用量強度に与える影響」

第38回 甲状腺眼症研究会(東京・3/22)
渡邊奈津子 座長「講演2 新しい甲状腺眼症治療薬テッペーザの有用性と忍容性について」

第125回 日本外科学会定期学術集会(宮城・4/10～12)
齋藤慶幸 「甲状腺癌(TC)併発した甲状腺機能亢進症(HT)に131I内用療法(RI)は禁忌かそれとも許容範囲か」

第114回 日本病理学会総会(宮城・4/17～19)
川井田みほ 「唾液腺型癌様の組織像を示す甲状腺癌の一例」

講演活動

第15回市民向け医療講演会「甲状腺の病気を治す放射性ヨウ素治療」(WEB・2/5～19)
渡邊奈津子 「バセドウ病への放射性ヨウ素治療」

ビラフトビ・メクトビ適正使用セミナー（東京・2/21)
友田智哲 「前治療からビラフトビ･メクトビへ切り替えた1症例」

ノバルティスファーマ株式会社 社内研修会(東京・3/26)
杉野公則 「甲状腺がんの治療 過去・現在・未来」

Thyroid Cancer Expert Meeting(東京・3/31)
鈴木章史 「がん個別化医療下での甲状腺癌薬物療法におけるレンバチニブの使い方」

あすか甲状腺セミナー (WEB・4/10)
渡邊奈津子 「バセドウ病治療のノウハウ～甲状腺専門医がわかりやすく語る、診断・治療・処方～」

Novartis BRAF＋甲状腺癌Webセミナー～症例を中心に～(WEB・4/23)
杉野公則 「BRAF/MEK阻害薬の登場によって、甲状腺がん治療はどのように変化したか？」
杉野公則 座長「BRAF陽性 分化型甲状腺癌の治療戦略を考える」

見学者のご紹介(ジャパンハート 関山様)

関山様(写真左)

国際医療NPO団体「ジャパンハート」より看護師の関山様がご見学にいらっしゃいました。関山様は、同団体と日本内分泌外科学会のパートナーシップ協定のもと行われている、ラオスの甲状腺手術支援プロジェクトに従事されています。日本の甲状腺疾患診療をより深く学ばれたいとのことで、4日間にわたり手術室・病棟・外来を幅広くご見学いただきました。

ラオスのプロジェクトには当院からもすでに3名の医師が参加していますが(P04-05)、現地スタッフの皆さんは設備などが十分ではないなか熱心に診療に励まれているそうです。当院でのご経験が活動の一助となりましたら幸いです。

表紙no写真

グリーンテラス 表参道

表紙の写真は、今年3月にオープンしたばかりの「グリーンテラス 表参道」です。2022年に閉店した複合施設「クレヨンハウス」跡地に建設されました。各フロアのテラスにはそれぞれ表情の異なる植栽がされていて、まるで空中庭園のような雰囲気。地下1階～地上4階にはフレグランスショップやコーヒーショップ、ジェラート店などが入居しているほか、屋上には明治神宮をのぞむルーフトップテラスが（上）。リラックスした時間を過ごしたいときにおすすめです。　（西澤）

インスタグラムはじめました！

伊藤病院公式インスタグラムを開設しました。
病院の活動や患者様へのお知らせなどを発信してまいります！

編集後記

Voice夏号をご覧いただき、ありがとうございます！お楽しみいただけましたか？梅雨の晴れ間にのぞく青空がまぶしく、暑さを感じる季節となりました。さて、表参道には診療の合間に立ち寄れるお店が数多く並んでおり、是非Voiceで紹介しているグルメ情報や寄り道スポットを参考にしていただければと思います。

初夏のみぎり、くれぐれもお体にはご留意くださいませ。暑さに負けず、夏を乗り越えていきましょう！次回のVoice秋号もお楽しみに…。　（松本）

甲状腺疾患書籍のご案内

当院近くの「山陽堂書店」でも販売しております。
ぜひご活用ください。

**「患者のための最新医学シリーズ
バセドウ病・橋本病 その他の甲状腺の病気　改訂版」**
監修：伊藤公一
定価：1,430円(税込)
発行：高橋書店

新版「甲状腺の病気の治し方」
監修：伊藤公一
定価：1,430円(税込)
発行：講談社

**「やさしいカラー図解
甲状腺の病気」**
監修：伊藤公一
定価：1,870円(税込)
発行：法研

**「図解 甲状腺の病気が
よくわかる
最新治療と正しい知識」**
監修：伊藤公一・高見博
定価：1,540円(税込)
発行：日東書院

**安全！便利！おいしい！
甲状腺専門・伊藤病院がおくる
ヨウ素制限食レシピ**
監修：伊藤公一
編集：北川亘
定価：1,760円(税込)
発行：全日本病院出版会

**「よくわかる最新医学
甲状腺の病気」**
監修：伊藤公一
定価：1,540円(税込)
発行：主婦の友社

発　行　2025年6月1日発行　第90号　伊藤病院広報誌委員会

ITO HOSPITAL
伊藤病院
〒150-8308　東京都渋谷区神宮前4-3-6
TEL　：03-3402-7411
FAX　：03-3402-7415
URL　：https://www.ito-hospital.jp